

干潟を彩る多様な生きもの

生きものの痕跡を探そう！

干潟の生物観察のおもしろさは、見えない生きもの、隠れている生きものを“探し出す”こと。上手に隠れている生きものも、必ずその痕跡を残しています。

いちばんの痕跡は、穴。干潟にあげられた多くの穴は生物の巣穴であることが多く、地上にはなかなか出てこない生物もありますが、しばらくじっとして気配をひそめていると、カニが出てきて干潟の砂（砂にまざっている有機物）をせっせと食べる様子や巣穴の整備をする様子が観察できることがあります。また穴のある場所を素早く掘ってみると、二枚貝やゴカイ類などが見つかることも少なくありません。

そして、注意深く干潟を見て歩くと、さまざまな不思議なものが見つかります。それらはときに生物の巣だったり、卵だったり、他の生物に食べられた跡だったり…。それらを頼りに干潟の生きものたちの営みを想像してみると、波音も静かな干潟の風景に多様な生きものたちの暮らしが重なって、しだいに“生命のにぎわい”が見えてきます。



スゴカイイソメの巣

貝殻や海藻の切れ端が固まっているのを見つけたら、巣の入り口。



タマシキゴカイの卵塊

まるで干潟の涙のよう。5センチほどの袋のなかに何万個の卵が入っている。

タマシキゴカイのフン

砂のなかの小さな藻類などを食べて、残った砂をわざわざ巣穴の外へ出す。



コメツキガニのつくった砂団子

巣穴の周りの団子は、砂のなかの藻類を食べて残った砂を丸めて置いたもの。



ツメタガイの卵塊

壊れた砂のお碗を伏せたように見えるのは、肉食性の巻貝、ツメタガイの卵。



ツメタガイに食べられた二枚貝

きれいな丸い穴は、ツメタガイが鋭い歯と酸で穴をあけて身を食べた跡。

危険な生物に気をつけよう！

干潟は遠浅で多くの場合波も静かで、海のなかでは安全に生物観察ができる場所といえます。生息している生きものにも毒をもっているものは少なく、裸足や素手で生きものに触れられるのも、干潟



イシガニ

大きなハサミは力が強く、指を切られることもあるので注意が必要。捕まえるときには必ず手袋をはめて！



マガキ

殻の端が鋭く、触るとナイフのように切れる。ぬれた手足はとくに切れやすく大けがをすることも。



アカエイ

長いしっぽの先に、強い毒を出す針をもつ。浅瀬の砂に隠れているため、水中ではゆっくりと歩いて追い払う。



アカクラゲ

触手に強い毒をもっているため、死んだものも素手では触らないこと。触って、腫れてきたらすぐに病院へ！

生きものの痕跡を探そう！

波が静かな入り江や湾の奥…。普通に考えれば、川から運ばれる有機物を餌にプランクトンが増殖し、水は淀んで濁っている、海岸には波に運ばれた海藻や生物の死骸が蓄積して腐っている…とれます。ところが干潟の海は、台風や大雨の後でなければ、多くの場合水は澄みわたり、生物の死骸などもほとんど見られません。

それは、二枚貝やカニなど、干潟に生息する小さな生物が、多くの有機物を食べることにより、水を浄化しているためです。そして、肉食性や雑食性のカニや巻貝、ヤドカリなどが、弱った生物や流れてきた藻を食べているから。自然界には、通常「ごみ」は存在せず、生物はすべて何かの餌として利用され、処理されます。

そのような“自然の浄化能力”を実感できる場所のひとつが、干潟の海です。

大変！干潟がなくなる

水深の浅い海は埋め立てがしやすく、また波の穏やかな入り江や湾は港としても適するため、干潟は早くから田畑や商業用地として造成されたり、ごみの最終処分場として利用されるなど、さまざまな目的で埋め立てられてきました。

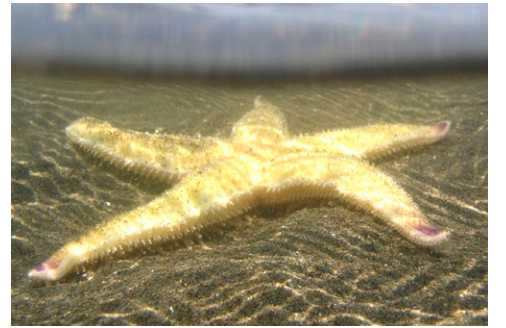
日本有数の大きさを誇る東京湾は、現在ではそのほとんどが人工護岸で覆われ、干潟はわずかに点在するだけとなっています。しかし、江戸時代には内湾のほとんどが干潟に覆われ、永遠と浅瀬の続く海でした。そしてこの雄大な干潟の海が、現在でも「江戸前の魚」として名の通る東京湾の海産物を生んでいたのです。

ところが昭和30年代以降の急激な経済発展にともない、東京湾の埋め立ては加速度を増し、干潟は急激に姿を消しました。それと同時に、漁獲高は激減し、最盛期に20万トン近くあったものが、現在では1万トンを切っています。

旅立ちは一たけれど…永住の場がない？

このような状況のなか、全国的に干潟の保全や再生が行われていますが、干潟は単独で保全されても、生物の数はなかなか増えません。それは、干潟の生物の多くが子ども（幼生）の時代をプランクトンとして過

驚くほど澄んでいる砂干潟の海中。小さな生物がどんどん有機物を食べる干潟は、まさしく自然の「水再生センター」だ。

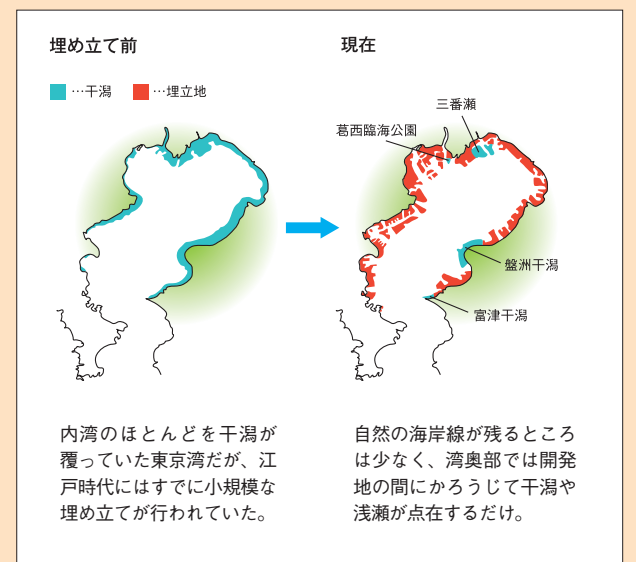


雑食性のアシハラガニ。流れ藻や弱った生物も、見つければ何でも食べる“干潟の掃除屋”。



弱った生物や干潟に取り残された魚がいると、あっという間に群がって食べつくすアラムシロガイ。

ごすためです。プランクトンは遊泳能力が低いいため、移動は潮の流れに委ねられます。流れの大きな大潮の時期に、多くの生物が産卵や抱卵を行うのは、このためです。潮に乗った生物の幼生は、流された先で環境の整った干潟があれば成長し、再び大潮の日に仔を放ちます。つまり、干潟の生物の子どもは、親とは違う干潟で成長をするわけです。生物が増えるためには、子どもが行き着く場所（干潟）がなければ、親がどんな仔を放っても増えることができないのです。



干潟でよく見られる生きもの



アシハラガニ 塩性湿地（河口部）

ヨシ原や河口近くの干潟に集団で生息しています。外敵の気配を感じると、ヨシ原や水の中に身を潜めます。食欲旺盛で、打ち上げられた魚や、地面に落ちた虫、ときには別種のカニを襲って食べることもある他、ヨシ

の葉や流れ着いたアマモを食べることも。白い大きなハサミをもつのがオス。最近では塩性湿地が少なくなったため、観察できる場所が激減しています。



コメツキガニ 砂干潟

甲羅の幅が1センチほどの小さなカニ。水はけのよい砂干潟に生息し、干潮時に巣穴から出てきて、砂のなかの小さな藻を食べ、残りの砂をハサミで上手に丸めて干潟の上に置いていきます。小さな砂団子の間にとき

り見られる大きめの団子は、巣穴をつくるときに運び出したもの。春から夏にかけての繁殖時気になると、オスはパンザイをするようなダンスをします。



チゴガニ 泥干潟

体の割に長い眼をもちます。コメツキガニと同じように食べ残した泥で団子をつくりますが、形は不定形。これは口の形の違いによるものです。オスは白いハサミをふってダンスをしますが、ハサミをふるタイミング

が近くのカニと同調しているのがすごい。メスが近づくとダンスはより激しさを増します。奥病なので、観察したいときには穴の側で、5分間はじっとしていきましょう。



ヤマトオサガニ 泥干潟

潮が引いてもあちこちに水が残るようなややわかい泥干潟に集団で生息しています。オスはときどき大きなハサミをゆっくり振り上げてウェービングをします。臆病なため、近づく

とすぐに巣穴に逃げこんでなかなか出てこないため、行動観察は遠くから双眼鏡を使ってみるのがおすすめです。体を水中に隠し、長い眼だけを水から出して周囲を観察していたりします。



ユビナガホンヤドカリ 砂干潟

水ざわや海藻のまわりに集まっている巻貝を拾うと、なかからヤドカリが顔出すことも多いもの。触覚は糸状で長く、右のハサミが大きいのが特徴。タイドプールや水路のなかを動き回り、貝の肉や藻類を探して食べています。エビやカニと同じ甲殻類のため、成長とともに脱皮をします。腹部はやわらかく、普段は先にある爪で殻をホールドしていますが、成長すると殻もすみ替えます。



ニホンスナモグリ 砂干潟

潮が引いた後の干潟に、幅5センチぐらいの小山を見つけたら、スナモグリの巣の可能性が！ 巣の場合、まん中に噴火口のような穴があり、中から水と一緒に砂が吹き上げられ

ますが、静かに近づいて一気に砂を掘り返すと、上部にいたスナモグ리를捕まえることができることも。水がない干潟に掘り出されると、自力ではなかなか砂に潜れません。



ユビナガスジエビ 河口干潟

体長4センチほどの小さなエビです。内湾につくられた岸壁やカキ床、海中に沈んだ漂着物のなか、アマモやアオサなどの海藻（草）の影などに潜んでいるため探さないとわかりま

せんが、数は多くよく見られます。体の色は、普通は茶色っぽい色をしていることが多いのですが、暗いところで飼育をすると色素が抜けて薄くなり、スジエビモドキという仲間と見分けがつかなくなります。



マハゼ 砂干潟・塩性湿地（河口部）

内湾や河口の水深が浅い場所に生息します。春、日差しが強くなり水温があがると、まっ先にやってくるのがマハゼの稚魚。潮が引いたあとの水たまりに小さなマハゼが集まっているのが見られます。干潟で成長

したマハゼは夏が来るころに沖へ出て行き、秋の終わりにオスが泥場の海底にトンネル状の巣穴を掘って、繁殖をします。メスが卵を産むと、冬の間卵を守るのはオスの仕事です。



アサリ 砂干潟

潮が満ちているときには、砂のなかから2本の水管だけを海水中に出し、一方から海水を吸い込んでもう片方からビュッビュッと吐き出しています。こうして海水をエラでこし、プランクトンを食べているのです。干潟の

水面をよく見てみると、あちこちで水が飛んでいるのを観察することも。生息場所によって殻の色や柄に特徴があり、東京湾のものは模様ははっきりとしています。



バカガイ 砂干潟

大潮の干潮時、いちばん潮が引いたときに波打ち際になる（干潮線）、沖に近い干潟の砂のなかに生息しています。殻がツルツルで動きが素早く、掘り出しても干潟の上におくと、すぐに潜ってしまいます。水中では、肉食性のツメタガイに捕まりそうになるとサッと砂から出て足で海底を蹴り、30センチもジャンプして逃げることも。掘り出されても、殻がしっかりしまらないのが特徴です。



シオフキ 砂干潟

アサリと同じ場所において、一緒に掘り出されますが「砂が多くて食べられない」といわれ、潮干狩りでは干潟に取り残されてしまいます。小さなときには色・形・殻の薄さなめらかさ、動きの俊敏さともにバカガイ

と見分けが付きませんが、大きくなると丸くて殻が分厚くなります。ただし動きの素早さは変わりません。見つけたら干潟の上に置いて潜るところを観察してみましょう。



マテガイ 砂干潟

細長く表面が滑らかな殻をもつマテガイは、素早く砂のなか深くまで潜ることができるため、なかなか掘り出すことが難しい貝です。殻は筒のように見えますがれっきとした二枚貝。ただし、殻を閉じても前後は開いて

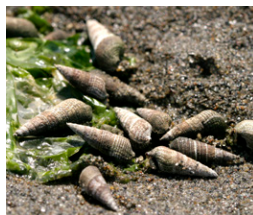
います。先端にある穴が開いた2本の水管は、切れやすい短い節状になっていて、敵に襲われると先だけ切り捨てて、砂のなかに逃げ込んでしまいます。



アラムシロガイ 砂干潟

潮が引いたあとの浅い水たまりのなかを、細長い水管を左右に振りながら滑るように移動している、小さな肉食性の巻貝です。水管で臭いを感じし、弱った生きものや取り残された魚をみつけると、群がって食べて

しまいます。水のある海底にじっと手を置いておくと、寄ってきて食べているのかチクチクします。ゴカイ、魚、クラゲなど何でも食べますが、古くなった死骸は食べません。



ホソウミニナ 砂干潟

干潟や磯場にできたタイドプール（潮だまり）の底にある砂地などに生息しています。ウミニナ類のなかではめずらしく、プランクトンとして過ごす時期（プランクトン幼生期）がなく、卵からそのまま親と同じ形の

稚貝として生まれます。そうして、ずっと同じ場所で暮らすため、近くの干潟がなくなっても、生まれた場所の環境が悪化しなければ数が減少することはありません。



イボキサゴ 砂干潟

巻貝ではめずらしく、殻の口から出たラッパのような水管で海中のプランクトンを取り込み、ろ過して食べています。ろ過能力は高く、干潟の水質浄化に役だっていると思われます。ただし、多くの干潟で貝殻を確認することはできませんが、生きているイボキサゴを観察できる場所は大変少なくなっています。干潟に残された殻は、現在ヤドカリに利用されているようすが観察できます。



ツメタガイ 砂干潟

足を広げると15センチにもなる大型の巻貝で、この足で他の貝を包み込み、ヤスリのような歯と酸で殻に小さな穴をあけ、そこから消化液を流し込んで身を溶かして食べます。ときに、ツメタガイの殻にも同様の小さな穴

があるものが。干潟の上に出てくることはなく、広げた足で砂をかき分けて移動しています。掘り出されてもすぐに潜水艦のように静かに砂のなかに戻って行きます。



マガキ 泥干潟

内湾や河口の岸壁や杭などについて成長します。ときに干潟の上で集団となり「カキ床」をつくることがあります。殻の上にはフジツボやムラサキイガイなど岩場の生物が多くつき、一方、カキ床の下は酸素が不足し、

干潟の生物が生息できなくなってしまいます。以前は「カキ床」は自然に消えるといわれていましたが、現在では消えずに勢力を伸ばすことが多くなっています。



チロリ 砂干潟

干潟を掘るとすぐに見つかるのが、足のついたミミズのような形をしているゴカイ類です。なかでも筋肉質で足がほとんどなく、丸いチューブのような形でハリがあるのがチロリの仲間。性格は獐猛。頭の先から出

るフンの先には四つの小さな歯があり、砂のなかの他の動物を襲って食べます。手や足をかまれるとチクッと痛いので、採集して観察をするときには気をつけましょう。



タマシキゴカイ 砂干潟

干潟に深い巣を掘って、砂のなかの小さな藻類などを食べています。お尻の先だけを巣穴から出してフンをし、モンブランケーキのような砂山をつくります。じっと見てみると、砂のなかからよるよると絞り出され

るのが観察できることも。お尻はやわらかく簡単にちぎれ、よく鳥に食べられますが、食べられても再生ができ、先だけであればゴカイが死ぬことはまずありません。



スゴカイイソメ 河口干潟

ゴカイの仲間では体長が30センチにもなるものもあります。特徴は頭から螺旋（らせん）状に伸びる赤いエラ。砂のなかにつくる管のような巣の先端を干潟の上に出し、海藻や二枚貝の殻などを付けてゴミの塊のように

見せて、餌を待ち伏せしています。海藻や弱った生物を見つけると、体をのり出して鋭いあごで挟みとります。巣の前に割った二枚貝を置いて、じっと観察をしてみましょう。